

第2回宇部市協働のまちづくり審議会（議事録）

日 時：令和6年8月7日（火）17：30～

場 所：総合福祉会館 3階 講習室

出席委員：8名 欠席委員：4名

事務局：黒瀬部長 床本次長 小林課長

鈴木副課長 三好係長

■内 容

1 会長挨拶

2 報告事項

- ・2期庁舎の利用時間について、資料に基づき事務局から説明

3 協議事項

宇部市新庁舎2期庁舎市民活動支援スペースの活用について（まとめ）

- ・各世代や各団体に市民活動支援スペースを活用していただくために、3つの機能「情報発信・情報収集」「相談」「交流」に対して、どのような取り組みが必要であるか、ご意見をいただいた。

【協議内容】

（会 長） 第1回目の審議会で3つの機能が必要との話しが出たと思うが、実はもっとこういう機能があった方がいいという事があるかもしれない。

まずは、3つの機能だけでいいのか、その他にも必要な機能があるのかを協議し、それぞれの機能について一つずつ整理していきたい。

機能ごとに整理された後に、全体を通して総括し、最後に様々な取り組みに対して、時期的、予算的な制約がある中で、市民活動支援スペースが活用される時に、備わっていないといけない機能、段階的に備えていく機能など、優先順位について協議したい。

審議会で意見を出して終わりではなく、どのようにPDCAが回っていくのか、チェック体制をとって欲しいものがあれば委員の皆さんの意見をお聞きして、方向性の確認をしたいと思う。

前回の審議会から、必要と思われる追加の機能について意見等お願いしたい。

（委 員） 市民活動という部分とは違うかもしれないが、子どもや学生の立場からすると、遊びの場や勉強スペースも多少設けてもらえると、バスなど交通の便も良く、市役所に立ち寄りやすく、皆で集まりやすいと思う。あまりお金を使わずに皆が集まって話ができる交流の場ができればと思う。

（会 長） 遊びの場や学習の場から、市民活動への関心に繋がるような体制作りができれば良いと思う。

全ての機能について、人材育成という観点がプラスアルファで必要だと思う。人材育成ということは、機能としてあるというわけではなくて、情報発信、情報収集などを行ううえでの人材を育成する必要があるし、相談、コンサルできるような人材を育成する必要がある。こういうネットワークを広げる専門的な能力を持った人も必要だろうし、また市民活動団体のリーダーを育成するというような、観点が重要になると思う。

《情報発信・情報収集機能》

～欠席委員の意見について紹介～

- ・ホームページの充実
- ・行政、地域の専用コーナー、ご意見BOXの設置
- ・宇部市民活動センター青空の拡大活動場所
- ・フリーWi-Fiの使用やオンライン研修会・会議ができる環境整備
- ・イベント情報の集約
- ・活動事例など関係書籍の閲覧
- ・行政が面白い事をやっているなと思ってもらえる仕掛けが必要
- ・市のリブランディング

(委員) 欠席委員の意見について、第1回審議会が出た意見が踏襲されていると思う。今年中に施設を運営する委託事業者を選定するという事だが、審議会が出る意見のどこまでを委託事業者が負担するのか、どこまで市が準備するのか漠然としていて、意見の出し方が難しいと思う。

(事務局) 委託をするにあたって、テーマに沿った講座を年1回実施する事や市民が相談できるコーナーを設けてもらうなど細かく仕様を作成し、市で積算し、実施可能な業者を選定する。審議会が必要とされる機能があれば、それも加味する。

インターネットの利用に関して、当初は、市役所のフリーWi-Fiを活用し、ネット環境の用意は不要と考えていたが、2時間毎に接続し直す仕様が変わり、業務への支障や利用者に不便を掛けるため、委託事業者がインターネット契約を行いWi-Fi環境の整備が必要となる。

本日頂いた意見を精査させていただき、組み込めるものは委託業者へ依頼したいと思う。

(委員) 情報コーナーについて、地域の情報は非常に重要だと思う。地域の活動の紹介など、情報コーナーの中で、皆さんと意見交換ができるような場ができれば良いと思う。

(委員) 子育ての場所は充実しつつあると思う。その反面、高齢者や学生の居場所が少ない。せっかく学生の街なので、学生が宇部に住んで良かった、宇部に就職しようと思ってもらうためにはどうすればいいかという事だと思う。バス停もすぐで、真締川や彫刻もあり、市役所に行きながら楽しく学べる場所にして欲しい。

(委員) 業務委託業者というのは、指定管理者となるのか。

(事務局) 指定管理ではなく、業務委託となる。プロポーザル方式を考えている。

(委員) フリーWi-Fiが整備されていないと若い方の利用は難しいし、まだまだ紙媒体も必要だと思う。情報発信の機能自体も業務委託の中に折り込むのか。

(事務局) 市民活動センターの機関紙の発行やホームページ「チイキのチカラ」での地域の情報発信も委託業者で運営を行ってもらおう。「チイキのチカラ」では最近開設した市の公式インスタグラムの宣伝もお願いしたいと考えている。

(委員) 子ども達は、勉強する場所がなく、ボスティのフリースペースくらいしか場所がない。高校に入ると色んな地域の子ども達と一緒にになるので、どこか中心となる場所に集まって、と考えると市役所のスペースにはコンビニが入り、食堂もあるので

子ども達が勉強しやすい環境ではないかと思う。井筒屋の跡地の施設と市役所との違いをよく聞かれる。高齢の方からバスを待っている間に色々見られると良いという意見を聞いている。

情報発信・情報収集の場として、市内で困っている企業に情報提供して、情報を拾いに来るといった交流があつていいのではないかと思う。子ども達も高齢の方も行ってみようと思える場所になれば良い。情報を発信していく場所をどのように発信していくのか、皆さんと話していきたい。

(会 長) このスペースは市民活動に関連する目的のスペースで良いか。

(事務局) はい。

(会 長) 学習の場という話が出ていますが、支援スペース以外のスペースで可能であれば仕様に入れていただければと思う。支援スペースは市民活動と関連する学習をするという目的であれば設けることができると思うが、受験勉強や定期試験のためという目的であれば、このスペースの活用は難しいと思うが間違いないか。

(事務局) 市民活動支援スペースとしては常時そこで学習するのは本来の趣旨と違ってくるのでそのような利用は考えていない。

(委 員) ホームページを充実させる事が1番必要だと思う。早いのはSNSだと思うが、ホームページを充実させて、その次にSNSではないかと思う。学生からは、先生から聞いた情報が信用でき、安心して参加できると聞いたので取り組みが必要だと思う。高校生について探究科ができたり、生徒を外に出そうとされているので、高校生も視野に入れながらの取り組みが必要だと思う。

(委 員) デジタルも紙ベースも大事というところで、紙ベースの方が伝わりやすいところが学生にはあると思う。デジタルに特化していると言われる若い世代であっても紙ベースが伝わりやすいし、信頼性が高いと思う。アイデアとして、情報を分かりやすく紙ベースで伝えるため、地域の小学生が地域の新聞を提示する。小学生が手書きで地域で勉強したことなどを発信する事で、地域活動に参加したり、逆に、親子で自分の書いた新聞を見に来たりと、支援スペースの機能がもっと充実し、温かみのある場所になるのではないかと思う。

(会 長) 情報発信・収集に加えて利活用が入ってくると思う。いろんな媒体で情報発信すること。どこの行政も頑張っているが、実際は市民に届かない。色々な媒体を試して、その効果を測定した方が良いと思う。SNSはこの世代に届く、紙媒体は意外に若い子が見ているなど、データで示す事ができれば市民にも分かりやすくなるのではないかと思う。SNSも流行っているが、自分で検索しないと情報が出てこない。自分の興味がない情報は流れてしまう。自分が関心のある情報だけクリックするというふうになっている。本当に届く媒体は何なのか試しながら、客観的な証拠を持ってやっていくことが良いと思う。

情報に関して、管理形態は必要だと思うが、データベース化も重要だと思う。紙媒体もデータベース化し、家ですぐ読めるようにし、新しい情報に更新も行う。

人材育成では、小学生新聞を作って掲示について提案があり、自分の子どもや関わりのある人達は、今でもやはり絆みたいなのがあり見に行きやすいと思うので、小学校とか中学校などとの連携が重要だと思う。

(委 員) ホームページは路面店であり、SNSはコマーシャルであるという表現をする。先程、チイキのチカラのサイトの紹介があったが、サイトについて初めて知った。サイトができて良いものが発信されていても、宣伝が不足して伝わっていないとサイトの存在を知られない。24 地区の情報が発信されているこのサイトのコンテンツを増やすなど、ブラッシュアップして、今回の市民活動支援スペースの中で運営、発信していただいてもいいのではないかなと思う。紙ベースでサイトの存在を知らせ、ホームページを見に行けない方、地域活動に関わりづらい方の目に止めるためには、チイキのチカラの宣伝チラシを市内全域にフリーペーパー等で配布すると良いと思う。ホームページやSNSアカウント作成時には、プラスでアナログを併用しないと効果がないと思っている。

《相談機能》

～欠席委員の意見について紹介～

- ・定期的に集う場所の提供
- ・定期的な相談会、講座の開催
- ・「青空」の活動場所の拡大
- ・相談BOXの設置

(委 員) 挑戦の相談の場となれば良いと思う。例えば、イベント補助金の利用方法や、スタートアップの相談として学生など、これから何か始めようとする方にアドバイスがいただける場になれば良いと思う。相談BOXは、すごく素敵だと思い、相談BOXをデジタル化しQRコードから簡単にスマホで読み取れ、スマホで相談したいことと連絡先を繋げ、早急に支援ができる方法ではないかなと思う。デジタル化とアナログ化を併用しながら、こういった相談の場を進めていければ良いと思う。

(委 員) スタッフが相談者の趣旨を読み取れる力が必要で、スタッフの養成が必要だと思う。相談者が整理できていない場合も多く、時間が掛かるケースもある。気軽に寄れる来やすい場所となる事が大切だと思う。

(委 員) 市民活動の相談というと、趣味の教室を広めていきたい、色々な人と一緒に活動していきたいなどの相談なのかなと思う。相談したい人は多いと思うが、ここでこんな相談ができるという具体的な案の発信を広報などで市民に届くように行っていく必要があると思う。

(委 員) 市民活動の相談は、様々で、自分たちの活動で何がしたいのかを聞きながら、何が1番いいのか考えながら相談に乗っている。その人の社会や地域に役立ちたいという思いを形にしてあげられるように、ステップアップしてもらえるように支援しながら相談に乗っている。

(委 員) 色々な相談に乗れるような体制の準備が必要だと思う。相談者自身が何を相談しにきたのか、何を聞きたいのか、という方は実際に多いと思うので、冒頭会長から人材育成という話があったように、相談内容をよく聞いて交通整理ができる、相談を受けて繋げることができる方を育てるところも重きにおく必要があると感じる。それとたらい回しにならないよう、ワンストップでそこにすぐに繋ぐことができるような方が多く増えると良いと思う。

- (委 員) 市民活動支援スペース機能というと、現在のうべネットワークの活動になると思うが、東京の方では、ボランティア＝市民活動家で、はっきりしている。行政が色々相談を受ける事も必要だが、ボランティアとして相談の場を設けて、いろいろな話を持ってこられたときに聞くことはできるが、専門的なことで相談となると誰が対応することになるのか。
- (会 長) 市民活動の専門家とは誰なのか、やはり実際に経験している方が専門的な立ち場で話をされるようになるのかなと思う。起業に繋げる、スタートアップの方法などの専門的な相談や、「何をどのように相談したら良いのか分からない」といった相談などがある。後者の相談については、実体験で様々な活動をしている方が常駐し、話を聞いて整理していくのが重要なことだと思う。一方で起業やスタートアップなど何処に相談したらいいのかについては、常駐でいる方が相談できる場所に繋げるところまでだと思っている。
- (委 員) 自治会関係では、交通、道路、地域の川の氾濫など、本当に様々な相談が来る。地域関係の相談であれば、行政に相談するしかない状況であって、市民活動支援スペースでの相談の場というのは非常に難しいと思っている。
- (委 員) これまでPTA活動、地域の活動、自治会の運営に関わった時期もあった。スペースのテリトリーを明確に分けなければいけないと思う。営利、非営利に綺麗に分けられるとは限らないと思うが、NPO団体の支援活動や新たにNPOを検討されている方々へのサポートは必要だと思う。ただ行政がやるべき仕事とあくまでも市民活動団体に対してのサポートを明確に分けた上で、相談を受けますというのが伝わりやすいように、例えば「ボランティア活動したい人の相談を受けます」のように、具体的にこういう相談を受けますという事が分かりやすい相談BOXが幾つもあるというイメージや、情報発信する時にも、こういう相談を受けますという様に明確に伝えるべきだと思う。スペースの立地として市民が最初に行きやすい場所に設けられているので、振り分けられるように各団体との連携、それぞれの役割分担の明確化が必要だと思う。
- (会 長) 市民活動の場である事を打ち出すと共に、市民活動とは何なのかと思っている人も多いと思うので、このスペースのテリトリーが分かるようにしながら情報発信していく事が必要だと思う。
- (委 員) 相談を受ける際もこういう相談だったら受けられますと明確化する必要もあるが、各団体がボランティアスタッフの募集などを情報発信することで、このスペースで関わる事ができるカテゴリーが分かりやすくなると思う。
- (会 長) 市民活動中の人同士の困り事などの相互の相談体制も必要だと思う。一方で障害者の方が市民活動をしたいと思った場合、毎回支援スペースに通う事が難しければオンラインでも相談できる場所も設ける事ができれば多様性の一つになると思う。
- (委 員) チイキのチカラのサイトの中の専門家派遣制度は、市のウェブサイトに掲載されているプロフェッショナルの方々か。
- (事務局) その部分は、うべネットワークが対応されている。
- (委 員) 講座を開催する際の講師の紹介など行っている。

(委 員) そうした形でエントリーされている事を知っている人は少ないと思う。そういった制度がある事を出していいのではないかなと思う。相談してみたいとか、そういう形で登録されている方たちと繋がりが欲しいなど出てくると思う。

《交流機能》

～欠席委員の意見について紹介～

- ・スペースを割当て、活動団体を選定し常駐させ、別の活動と常駐の活動団体との交流が始まる
- ・交流会、イベントの実施
- ・情報端末の使い方について気楽に相談できるコーナーの常設

(委 員) 情報発信・収集も相談も交流にしても、何か一つ繋ぐというようなものがあって市民の方の悩みがそこに来て、そこから市民活動というところで非営利団体の方などが悩みを繋いでくれる、常駐する人も市民も両方が共存している感じがあると、市民の方も発信しやすく、情報も拾いに行けると思う。

(委 員) 情報発信機能が充実してくれば、自ずと交流も生まれると考えている。短くて簡単でいいので、各団体に持ち回り等で活動紹介をしてもらう事例発表会や、相談案件を掘り起こすためのセミナーなどを定期的に、できるだけ頻度を高く開催すると、そこから来られた一般市民の方々との横の繋がりもできると思う。

(委 員) 地域では、色々な問題など話し合いの場で解決できることもある。地域同士でも非常に交流の場は重要だと思う。地域だけではなく、学生などの交流の場にしていければと思う。

(委 員) 本当に皆様が新しい市役所のスペースに足を運んでもらい、相談や情報収集など色々なことをやりながら交流の場を設けていければいいと思う。

(委 員) 1人でもふらっと行けるような交流の場にして欲しいと思う。垣根の低い施設にして欲しいと思う。

(委 員) 用事がなくても来ることができる、地域団体と市民と行政が繋がる場になればいいと思う。

(委 員) セミナーを定期的に開催することで、市民活動スペースの宣伝になると思う。地域活動の交流の場として、市民の方が自主的にイベント開催できる場になればいいと思う。情報端末の使い方について気楽に相談できるコーナーの常設とあったように、高齢者の方と学生の繋がりや、市民活動になるかは分からないが、ワークショップなどで市民同士が繋がる場としていいと思う。

(会 長) 垣根の低い、誰でも交流しやすい、オープンスペースで、ある団体が活動していても、いつでも誰でも市民活動に関わる事であれば活動できるオープンなスペースがあると入りやすいと思う。交流の場として、相談や情報発信なども同じだが、人材育成を行うことで、Aの団体とBの団体を掛け合わせるという視点を持つ人材が常駐していると活動の幅が広がると思う。そこで協働のプロジェクトなども支援するという機能が備えられたらいいと思う。

これまでの意見をまとめると、情報発信、情報収集機能については、様々な媒体で発信する。しかもそれが効果があるかどうか検討する。情報を利活用できるよう

なデータベースを作ったり、そういう環境の整備が必要である。

相談の機能については、常設の相談窓口を設置し、ある程度市民活動の経験を積んだ方が質問や相談に乗ってくれる場所がある。一方で、専門的なことも相談したい方には、予約制等になるかもしれないが、繋げることができるような機能がある。

また、定期的に相談会などを開催するという事で、なにかに挑戦したいという学生との交流を図ることできると思う。

交流の機能については、誰もがすぐに入れるようすること。定期的な活動の報告会などの交流を行うことができるような機会を設ける。

以上のようにまとめたが、その他ご意見等はありませんか。

(委 員) 市民活動スペースの様子を見て、改めて市民の意見を聞かれるのか。
審議会の今後の予定は。

(事務局) 皆様には、2期庁舎ができるということで、効果的な使用についてご意見をいただいている。この審議会自体は、広くまちづくりの色々なテーマについて、市民の皆様から御意見をいただくというための審議会。今後スケジュールに従って、業者選定を行い、運営がスタートして、その折々でテーマとして皆様に協議していただく事があるかと思うが、宇部市全体の中で、まちづくりに関するご提案をいただくという形で、年2回程度開催できたらと考えている。

(会 長) それぞれの取り組みについて整理した内容が、どこまで仕様書に反映されるかは分からないが、皆さんから、これは非常に重要であるということがあればご意見いただきたい。

(委 員) やはり誰にでも使い勝手の良い場所、行きやすい場所という事で解決するかと思う。旧井筒屋の跡地の施設との住み分けというか、連携がとても重要だと思う。

(委 員) 是非、冒頭からあった人材育成という観点も織り込んでいただきたい。まちづくりを本気でやろうと思ったらお金が掛かる。予算の確保等お願いしたい。

(会 長) 3つの機能、それに関する取り組み、その3つの機能には人材が必要不可欠であることから、その人材をどの様に育成していくのか考えながら仕様書に入れていただきたいと思う。

最後に仕様書に説明していただきたいのは、セミナーを何回開催したとかのK P Iのアウトプットだけではなく、それがどのように効果が出たのかというアウトカムがないと、本当にそれが機能しているのか分からない。こういうロジックで考えて、アウトプット、アウトカムという事を行政がしっかり説明されたら、行政に対する信頼というものが上がると思う。

本日の意見は、事務局でまとめて各委員にお知らせしてもらう。

(事務局) 現在、次回開催の時期、協議事項は未定ですが、決まり次第お知らせする。